

例 1 - 1 : 廃棄物の排出抑制と処理方法の組み合わせからなる複数案を設定した場合

複数案の設定

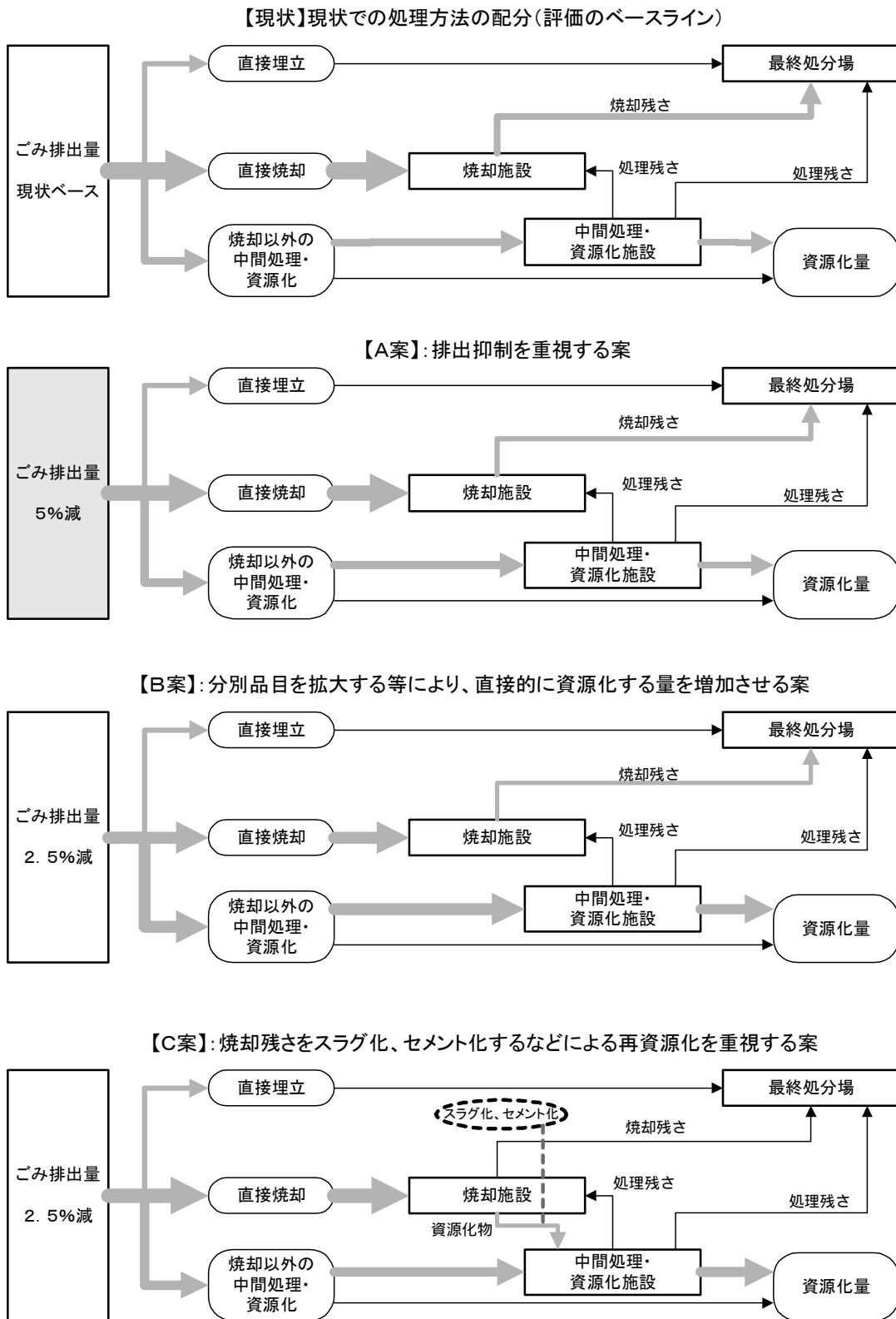


図 複数案のイメージ (例 1 - 1)

評価項目の選定

表 評価項目と指標の選定イメージ (例1 - 1)

		()

環境要素を大括りにとらえ、それぞれ代表的な評価項目について調査・予測・評価を行う場合のイメージ

評価項目に対して代表的な数値指標を設定することで定量的な予測も実施する場合のイメージ

比較評価

表 評価項目ごとの評価結果のとりまとめイメージ (例1 - 1)

				× ×
			A	

注) ○ : 他の計画に比べて優れている。 △ : 他の計画案と同じ又はほとんど差がない。 × : 他の計画案に比べて劣っている。

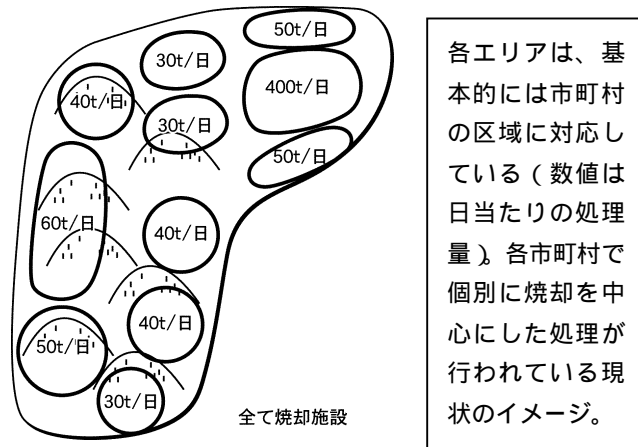
環境面の総合的評価のイメージ (環境面での各案の得失を明らかにする場合)

.....
.....
.....

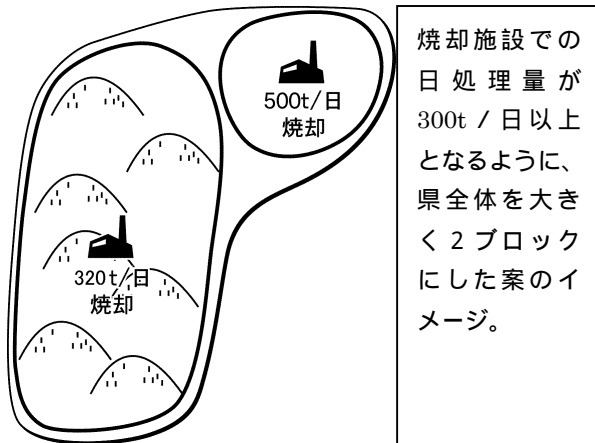
例 1 - 2 : 一般廃棄物の広域処理のあり方に関する複数案を設定した場合

複数案の設定

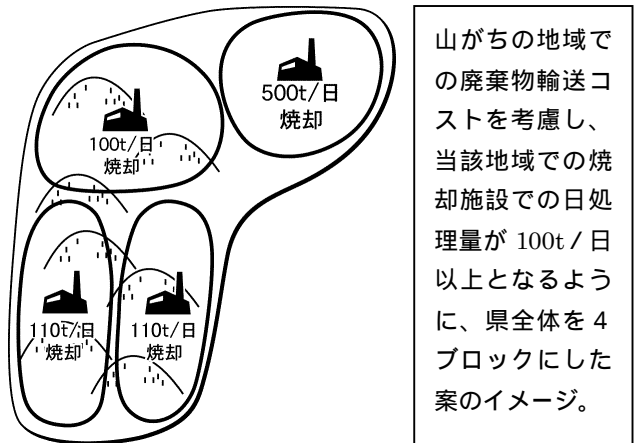
【現状】



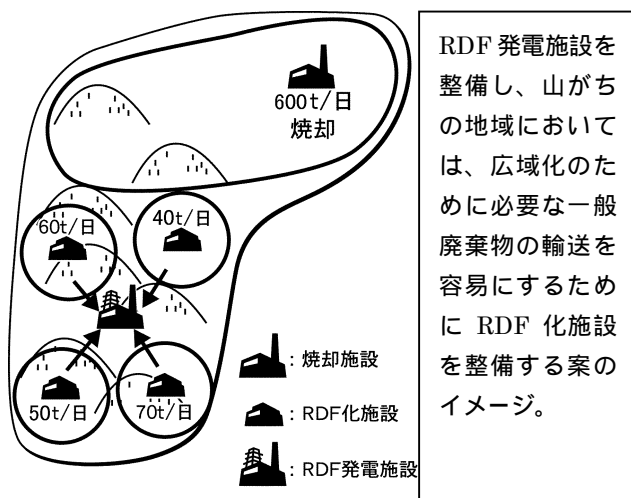
【A案】: 広域2ブロックに分けて焼却処理をする案



【B案】: 広域4ブロックに分けて焼却処理をする案



【C案】: RDF化施設と焼却施設を組み合わせる案



【D案】: 中継輸送施設（コンテナ化）と焼却施設を組み合わせる案

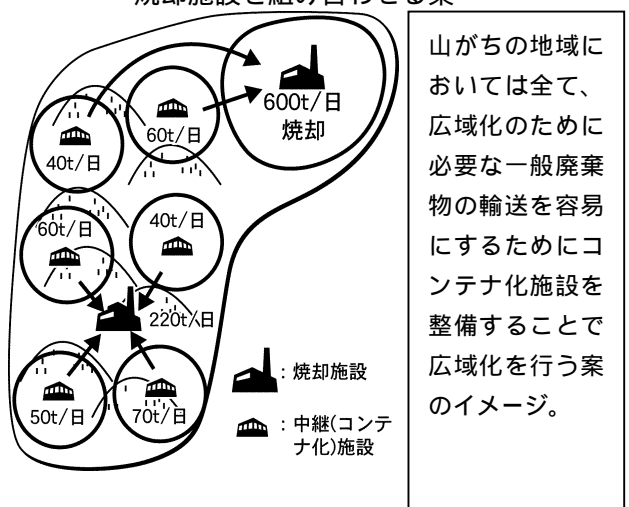


図 複数案のイメージ(例1-2)

評価項目の選定

表 評価項目と指標の選定イメージ(例1-2)

発電が行われることに着目して設定

比較評価

表 評価項目ごとの評価結果のとりまとめイメージ(例1-2)

		2	4	2	2
	30 60t/ 10	320t/ 500t/	100t/ 3 500t/ 1	600t/ RDF 4 RDF 1	600t/ 220t/
				RDF	
				RDF	

注) :他の計画に比べて優れている。 :他の計画案と同じ又はほとんど差がない。 :他の計画案に比べて劣っている。

環境面の総合的評価のイメージ(環境面の課題や留意事項を示し、環境面でより望ましい案や折衷案を示す場合)

...
...

例2：一般廃棄物処理の排出抑制と処理方法の組み合わせからなる複数案を設定した場合
複数案の設定

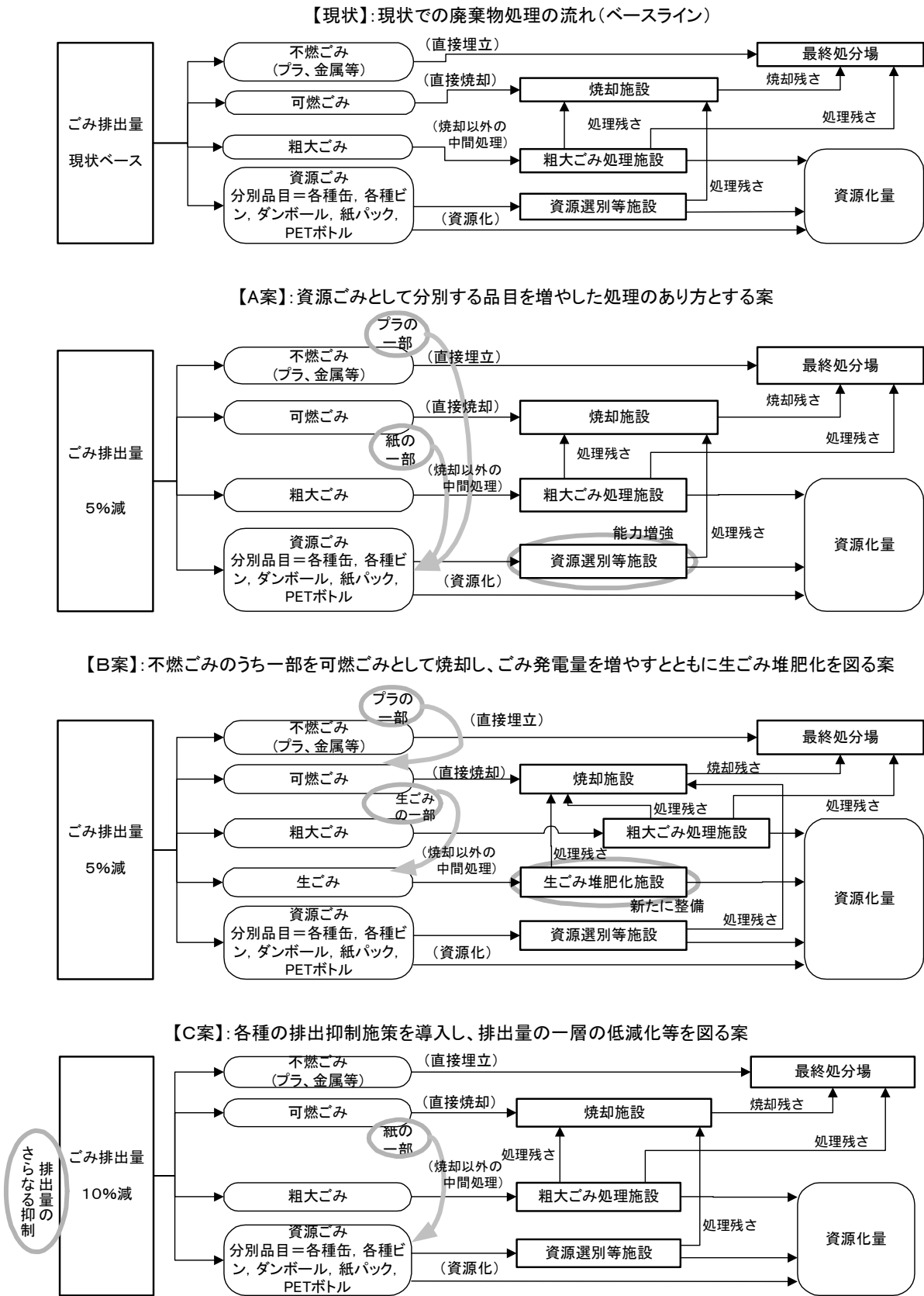


図 複数案のイメージ (例2)

評価項目の選定（都道府県廃棄物処理計画の例1 - 1と同様）

表 複数案の調査予測結果の整理イメージ（例2）

		()

比較評価

表 評価項目ごとの評価結果のとりまとめイメージ（例2）

			A	A B
		A	B	C
		t		A

注) : 他の計画に比べて優れている。 : 他の計画案と同じ又はほとんど差がない。 : 他の計画案に比べて劣っている。

環境面の総合的評価

- 都道府県の廃棄物処理計画の例と同様に、環境面での得失を明らかにする場合や、環境面の課題や留意事項を示し、環境面でより望ましい案や折衷案を示す場合などが考えられる。

例 3 - 1 : 一般廃棄物焼却処理施設の処理方式の複数案を設定した場合

複数案の設定

一般廃棄物焼却処理施設について、従来型方式と新技術を導入した次世代型方式の選択が検討された場合のイメージ

案	処理方式	概要
案 A	焼却施設	ストーカー式的全連続燃焼式焼却炉を採用。
	灰溶融施設	溶融処理は、重油や都市ガスあるいは放電等により得られる熱エネルギーを利用して1200~1800 の高温条件で焼却残さを溶融し、ガラス・石質のスラグとして回収する。残さ容積は 1/3~1/5 程度となり最終処分量の削減に効果がある。
案 B	焼却施設	(計画案 A に同じ)
	エコセメント施設	エコセメントは、焼却残さや下水汚泥を、石灰等の副資材と調合し、キルン炉で1300~1400 で焼成・粉砕し、セメント製品を作る。残さは発生せず、最終処分量の削減、資源の有効利用の効果がある。
案 C	熱分解ガス化溶融システム	ガス化炉と溶融炉からなる。ガス化炉では炉内を還元雰囲気中に保ち熱化学的に熱分解ガス、カーボン、不燃残さに分解する。このうちガスとカーบอนは、溶融炉で高温燃焼させ灰分をスラグ化する。

注) ストーカー式：階段状に配置された火格子の上でゴミを移動させながら、空気を吹き込み、乾燥、ガス化燃焼、火炎燃焼、おき燃焼を連続的に行う形式の焼却炉で、わが国では長い伝統を持ち、ゴミ焼却炉の主流となっている。なお、ストーカーとは、機械的に原料(ゴミ)を供給し円滑に燃焼を行わせる装置のことをいう。

評価項目の選定

表 評価項目と指標の選定イメージ(例3-1)

環境要素・評価軸	評価項目	指標
地球環境	地球温暖化	二酸化炭素排出量
大気・水等	有害物質等	ダイオキシン類排出量
		窒素酸化物排出量
		ばいじん排出量
	騒音	施設稼動時騒音
	振動	施設稼動時振動

- ・ なお、処理施設の諸元が相当程度具体的になった段階での S E A であるので、事業実施段階の環境アセスメントでの評価項目の設定の考え方が活用できる場合があると考えられる。

比較評価

表 評価項目ごとの評価結果のとりまとめイメージ（例3 - 1）

	t	t	× × t
	g-TEQ/	g-TEQ /	× × g-TEQ /

注) :他の計画に比べて優れている。 :他の計画案と同じ
又はほとんど差がない。 :他の計画案に比べて劣っている。

環境面の総合的評価のイメージ

- ・イメージ1（各案の得失を明らかにする場合）

.....		
	
.....		

- ・イメージ2（環境面の課題や留意事項を示し、環境面でより望ましい案や折衷案を示す場合）

.....	B	C
	
B		
C	

例 3 - 2 : 一般廃棄物最終処分場の立地の複数案を設定した場合

複数案の設定

一般廃棄物の最終処分場の立地について、一般廃棄物の搬入ルート、施設設置の地形、水源地との距離などの違いから、複数案を設定した場合のイメージ

計画案	計画の概要
A 案 (北部 地区)	市北部 地区、 川の支流 川源流部に位置する。標高差は大きい、勾配は緩い。主要搬入ルートは国道であり、国道からの距離は 400m。候補地の一部がハイキングコースとなっている。
B 案 (北部 × × 地区)	市北部 × × 地区、 川の支流 × × 沢源流部に位置する。標高差はやや大きく、勾配もやや急勾配。主要搬入ルートは国道であり、国道からの距離は 100m。
C 案 (南部 地区)	市南部 地区、 川の支流 沢の中流部に位置する。標高差はやや小さく、勾配も緩い。主要搬入ルートは主要地方道に接続する林道であり、主要地方道からの距離は約 1km。
D 案 (東部 地区)	市東部 地区、 川の支流 川の中流部に位置する。標高差はやや大きい、勾配は緩い。主要搬入ルートは国道に接続する市道であり、国道からの距離は約 1km、市道からの距離は約 100m。

- ・ なお、本検討においては、候補地が複数選定されることを前提としているが、既に施設の用地を確保しており予定地以外に確保できる用地がないなどの前提条件から計画等の策定上、立地の複数案を検討する余地がない場合は、立地の複数案に係る S E A は必須ではなく、そのような事情を明らかにしつつ立地以外の複数案を比較することが考えられる。

評価項目の選定

表 評価項目と指標の選定イメージ (例 3 - 2)

環境要素	評価項目	指標
地球環境	地球温暖化	二酸化炭素排出量
大気・水等	有害物質等	窒素酸化物排出量、浮遊粒子状物質排出量
	騒音	道路交通騒音、施設稼動時騒音
	振動	道路交通振動、施設稼動時振動
	悪臭	悪臭の拡散の程度
	水質等	放流先河川等水質、地下水への影響の程度
自然環境	地形・地質	重要な地形・地質への影響の程度
	植物・動物・生態系	生物多様性維持の観点から注目すべき植物群落、注目すべき生物の生息地への影響、生態系への影響の把握
	景観・人と自然とのふれあい	主要な景観資源への影響の程度 人と自然との触れ合い活動の場への影響の程度

- ・ なお、処理施設の諸元が相当程度具体的になった段階での S E A であるので、事業実施段階の環境アセスメントでの評価項目の設定の考え方が活用できる場合があると考えられる。

比較評価

表 評価項目ごとの評価結果のとりまとめイメージ (例3 - 2)

		100m	100m ×	100m
		100m	100m	100m 4 150m
		2km	2.5km	1 km 200m

注) ○ : 他の計画に比べて優れている。 □ : 他の計画案と同じ又はほとんど差がない。 △ : 他の計画案に比べて劣っている。

環境面の総合的評価のイメージ (環境面の課題や留意事項を示し、環境面でより望ましい案や折衷案を示す場合)

.....	
A	B
	A
B	
C

個別分野における戦略的環境アセスメントに関する研究会

委員名簿

(敬称略、50音順)

氏名	職名
浅野 直人	福岡大学法学部長
家田 仁	東京大学大学院工学系研究科教授 社会基盤工学専攻
井村 秀文	名古屋大学大学院環境学研究科教授 都市環境学専攻
亀山 章	東京農工大学農学部教授 地域生態システム学科
竹本 忠彰	大阪市環境事業局業務部 減量美化推進課長
田中 勝	岡山大学環境理工学部教授 環境デザイン工学科 国立公衆衛生院名誉教授
田中 充	法政大学社会学部教授
福岡 捷二	広島大学大学院工学研究科教授 社会環境システム専攻
安田 憲二	神奈川県環境農政部廃棄物対策課 課長代理

...座長